

《企画研修会①報告》

講演会「岩槻の人形」

～江戸木目込み人形の

伝統工芸士が語る～

今年度第一回企画研修会を、六月二十九日（日）午前十時から『にぎわい交流館いわつき』の多目的室で開催した。参加者は合計二十三名で、与野班から二名、現職の方一名にも参加していただいた。

本会は、第二回企画研修会で干支の木目込み人形作りを実施しており、今年度で四作目となる。人形作りに専念されている方の話を伺うことができれば、より深い知識を得て木目込み人形作りへの意欲を高めることができ

ると考え、森田人形店の森田和雄様に講演を依頼した。森田氏は「江戸木目込み人形伝統工芸士」として岩槻の人形制作に取り組んでおられるとともに、岩槻人形協同組合理事として岩槻の伝統工芸の



講師の森田和雄氏

継承と発展に尽力されている。奥様の森田由美子様とともに数々の人形作り講座を開き、岩槻の人形の普及に忙しい日々を過ごしておられる。

講演では、まず岩槻人形協同組合が制作したビデオ「人形のまち岩槻」を視聴した。映像からは人形作りの歴史と人形制作の工程、人形作りに取り組む職人の熱意と熟練の技がよく伝わってきた。ビデオ視聴に続く森田氏の詳しい話から、人形作りの奥深さを知ることができた。伝統工芸品である正絹の木目込み親王飾りと制作工程がよくわかる写真パネルを十数枚展示していただき、さらに理解を深めることができた。伝統工芸を伝承する難しさを知ることでもできた。後継者不足ももちろんであるが、木目込み人形を作るには桐の木が欠かせない。桐粉に生麩糊を加えて練り、型抜きしたものに布地を決め込む溝



伝統工芸品 木目込み親王飾り

を掘る。これが発砲スチロールでは伝統工芸として認められない。かつて岩槻の地には数多くの桐の木が栽培されていたようだが、近年ではほとんど見る事ができなくなってしまうている。近隣の春日部など桐材を使う産業も衰退していて、原料となる桐の端材を入手することが困難な状況であるらしい。

人形作りには三百もの工程があり、分業制で数多くの職人が関わっている。生み出された岩槻の人形には、子どもたちが健やかに育つことへの職人さんたちの願いが込められている。森田氏の話に、岩槻の伝統工芸を伝承する工芸士としての志を感じた講演であった。

（担当 井上修一）



休憩時間に話に聞き入る参加者